

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090500063		
法人名	社会福祉法人 みなみ信州		
事業所名	グループホーム あぐり山本		
所在地	長野県飯田市竹佐653-1		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年4月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成27年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づき、ご利用者の尊厳、本人本位のケア、地域と共に歩むを大切に、基本方針を掲げ、職員間で共有し、慣じみの関係でありつつも節度を保ち、日々実践に努めている。地域との交流を大切に、行事、共同作業に参加、小学校・中学校、各種ボランティアの受け入れ、菜園、花壇作りの充実を図る事等を通し、ここでの暮らし振りを理解して頂き、地域の皆さんとつながりを持ち、支えて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から、地域密着型のホームの役割を話し合い、地域との関係づくりに配慮した取り組みが行われている。地区のお祭りや文化祭等に参加する、近くの集会所での行事で五平餅等作ると届けてくれる、大雪の時はすぐに除雪に来てくれたなど、地区住民とのコミュニケーションがとれている。平成25年10月には、地区の要望を受け併設の認知症対応型デイサービスを開所して喜ばれている。看取りについて研修を行い知識を深め、協力医や訪問看護と連携を図り取り組み、家族から感謝されている。利用者職員もなじみの関係が築かれ、穏やかな雰囲気ホームとなっている。今後、さらにホームの力を活かした地域貢献をされる事が期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(すみれ)		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(さくら)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎月のケア会議・向上会議で読み合わせ、職員間で共有意識付けをおこなっている。玄関やホール内に掲示し、常に振り返りや確認が出来るようにしている。</p>	<p>開所当時から、法人の理念に沿った実践に心がけており、ホームの基本方針に基づいて振り返りを行っている。各職員、ユニット毎の目標を立て、半年に1回向上会議で見直しをしている。今期は、“5分間利用者に寄り添う”と具体的な目標を挙げて、取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事や祭りに招待され参加している。小学校の運動会や音楽会に招待されたり、児童の皆さんが来所し、花を植えて頂いたり、歌声を聞かせて頂き交流を深めている。</p>	<p>理念にあるように、地域との関係作りは意識的に取り組み、少しずつ地域のなかにとけ込んできている。1年前の大雪の際には率先して除雪に来てくれた。地域内在住の職員が清掃日に出て行く、近くの集会所の行事で作った五平餅やきのこ汁が届くなど、日常的な交流がある。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>民生児童委員、シニアボランティア、日赤奉仕団等訪問時、認知症症状等についての質問に対応した。短大生、中学生の実習受け入れを、積極的に行っている。自治会開催の作業に参加、地域とのつながりを図っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月一度、地域を代表される方々に施設を知って頂く良い機会になっている。利用者状況、日々の取り組み、事故・ひやりはっと等を報告。防災訓練や夏祭りにも参加して頂き、意見を頂いている。頂いた意見は職員会等で共有している。</p>	<p>住民代表、JA女性部、民生委員、市会議員、ボランティア代表、消防団等多彩なメンバーで定期開催している。8月の防災訓練の際には、推進委員からの意見で、どんな介助をするのかホームから提案を行い、避難誘導の協力体制を確認して実施。課題を提案してもらった。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>行政、包括支援センター等への連絡、報告をし、運営推進メンバーで毎回参加して頂き、施設の様子や取り組みを報告して相談や助言を頂いている。</p>	<p>運営推進会議に、包括支援センターの職員が参加しており、会議のなかで日々の状況等を報告し、助言をもらっている。また、必要に応じて、行政にも相談等を行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての研修を受け、職員一人ひとりが自覚している。日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関や居室窓は夜間以外は、施錠していない。</p>	<p>管理者が認知症リーダー研修、県主催の身体拘束廃止の研修を受講し、全職員に向上会議で報告。みんなで、身体拘束をしないケアや、言葉かけについて話し合った。今後も継続的に取り組まれることが期待できる。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について法人全体で研修会を設け、不適切なケアや虐待防止対策の基本を学び、情報を隠さず、放置しない事を学んでいる。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護、日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修を受け学んでいる。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結前、施設見学をして頂いている。利用料やリスク、看取りや重度化について法人の基本方針や医療連携体制等を詳しく説明し同意を得て契約をしている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月のお便りで生活の様子をお伝えし、来所時や電話で要望、意見を伺っている。意見等は連絡ノートを活用したり、申し送り時や会議で共有している。家族会の開催により家族からはなんでも言ってくれる様心掛けている。</p>	<p>運営推進会議に、家族や利用者も参加している。毎月、ホームや利用者個人の様子を載せたお便りを送り、面会時等にも意見を聞くように努めている。家族会を、ユニット単位で年1回開催し、家族だけで話し合う時間を設けている。入院した場合の不安等の意見もでて対応している。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者、管理者はケア会・職員会、又日常的に職員から意見を聞く機会を設け、意見や要望を反映に繋げている。</p>	<p>向上会議や日常的にも意見を言えるようになってきている。現在、利用者の高齢化に伴って、介助の手間に合わせた勤務時間の見直しについて意見が出され、検討を始める予定である。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境づくりに努めている。研修会の実施、資格取得奨励制度等儲け職員のモチベーションアップに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	視察研修の実施、専門職講師による職員全体研修、研修報告会を実施し、職員の人格育成に取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯伊グループホーム連絡会開催の定例会には管理者や職員が参加。勉強会や交流会を通じ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族と話し合い信頼関係を築けるよう努めている。不安や困っていること等をよく理解し、今までの生活環境を職員間で共有している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に話し合いを行い、家族のお気持ちや要望を伺い、関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「今、必要としている介護は何か」を見極め、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の先輩」であることを職員間で共有しており、昔からの行事の習わしを日々の生活の中で、教えて頂いたり、共に暮らしている者同士として、支え合えう関係性を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで、日々の生活の様子をお伝えするなどし、情報の共有に努め、関わり合う事に趣を置き、ご本人とのつながりを深めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に会いに行くなど、家族に協力をして頂いている。友人も気軽に会いに来て頂けるようにし、つながりを継続できる支援に心掛けている。	家族と一緒に墓参りや外食、友人がボランティアとして訪問してくれるなど、家族等の協力を得ながら関係継続の支援に心がけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員は共有し、テーブル席の席順を考えたり、職員が間に入り、会話や関わりがスムーズに行く様心掛けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じ連携が取れるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から利用者の希望や意向を聴いたり、会話の中から思いをくみ取っている。	担当制を用いて、日常生活の中から思いや意向の把握に努めている。アセスメントを行っているが、本人の思いを記載する欄が少なく十分とはいえない。また、日々の記録にも、記載が少ない。	今後、センター方式のシートを活用する、毎日の記録の方法を検討すること等が望まれる。また、全職員で一人ひとりの思いや希望について確認され、記録に残し介護計画に反映させるなど継続的な取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前、ご本人の生活環境や馴染みの情報はご家族から出来るだけ頂き、サービス開始後も把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の様子を介護明細に記入し、体調の変化、出来ること、わかることの把握や、発言、会話からの気になることを細かく記入し、情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえて計画を立てている。毎月のケア会議・向上会議にて計画を確認し、見直しを行っている。	介護明細に経過は記録され、モニタリングを元に毎月開かれるケア会議において検討し、長期目標は6ヶ月、短期目標は3カ月に1回見直しされている。家族や本人とも話し合っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は利用者の状態変化や日々の暮らしでの気づき、出来事等の記録を行い、職員間で情報の共有にしている。個別記録を基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況により、受診同行や送迎を行っている。ニーズに対応できるように日々努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校行事や、地域の方のお誘いで地域行事に参加させて頂いている。各種ボランティア・日赤奉仕団・シニア大学ボランティア等のご協力の下、豊かな暮らしを楽しむことができるよう協働し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>今までの掛かりつけ医とも継続できるように努めている。協力医と常に連絡を図り、早期治療に努めている。</p>	<p>希望に沿って受診できるように支援している。協力医とは、常に相談できる関係にあり、適切な医療を受けられる体制がある。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約を行い日常生活の健康管理や医療面の協力を頂いている。介護職員は看護職員から医療面での情報や指示を受けている。早期発見に努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院に際しては、協力医より連絡をして頂き、スムーズに入院できるようにしている。職員も必ず同行している。状況も家族や病院関係者から連絡を頂いている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針は本人や家族と話し合いを行い同意書を交わしている。主治医、看護師、関係者で方針を共有し支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期については、本人家族の意向に沿って同意書を交わし行っている。看取りの考え方等について、研修を行い、実際昨年に主治医や訪問看護と連携して看取りを行った。今後、経験を活かした取り組みが期待できる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の連絡網の整備。ホーム設置のAED、心肺蘇生術等の救急法を定期的実施。有事に備えている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練には消防署、地元消防団、運営推進メンバー近隣の協力者と共に火災、地震等の有事に備えて訓練をしている。夜間訓練はイメージ訓練をしている。</p>	<p>運営推進会議で災害対策について検討し、推進委員や地域の協力を得て、防災訓練を行っている。反省と改善を整理してまとめ、次へ活かしている。必要物品の備蓄はあるが、27年度にさらに充実させる予定である。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう、声かけや態度に気を付けている。	理念や基本方針にあるように、尊厳の保持や人権の尊重、利用者中心のサービスを目指している。言葉使いや態度等、お互い気になる点があると、向上会議で話し合って改善に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望等を言えるような、声掛けや接し方に努め、自己決定できるように支援している。難聴の方は筆談を用いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、利用者に合った過ごし方を優先し、ストレスにならないように努めている。業務本位にならないように気を付けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んで頂いたり、整髪も出来る方にはして頂き、また介助により身だしなみを整えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望献立や季節を感じて頂けるメニューにしている。菜園で収穫した野菜が食卓に上がり、楽しみへの支援に繋げている。	畑で野菜を作り、みんなで収穫して料理したり、食べたい物を聞いては献立に活かしている。それぞれの状況に合わせ、野菜の下ごしらえや配膳・片付けなど職員と一緒にやっている。誕生日の希望献立、行事食など、食事を楽しむことができるように支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している。一人ひとりの状態やその時の状態に合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>訪問歯科と連携をとり、早期発見、治療に取り組んでいる。衛生士によるブラッシングケアを定期的に行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを介護明細に記録することにより把握している。さりげなく声掛けや誘導をしてトイレにて排泄できるよう支援している。</p>	<p>トイレは分かりやすい表示がされており、さりげなく声をかけては誘導している。排泄の記録をつけ、一人ひとりにあった支援を行っている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事・お茶には野菜や煮物、乳製品を多く摂って頂くメニューにしている。入浴後には水分を十分飲んで頂き、軽体操も取り入れて予防に取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>気分転換ができたり、心地良く入って頂けるよう声掛けを行いながら、一人ひとりのペースに合わせてゆっくり入って頂けるよう努めている。</p>	<p>入浴は、毎日用意して、週2回は入ってもらえるように声をかけている。一人ずつゆっくりはいれるように支援がされており、車椅子の方は職員2人体制で介助している。時にはゆず風呂にするなど楽しんでもらっている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣により、自由に休んで頂いている。安眠できるよう居室環境に配慮している。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬時、名前を確認、又飲むまで確認している。薬が変更になった時は、看護師より指示説明がある。副作用や用法、量は職員間で情報を共有している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、台拭き、洗濯物たたみ等の家事仕事など役割になっている仕事もある。お手伝いして頂いた時には感謝の言葉を忘れずに伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方々や家族に協力して頂きながら、地域の行事や本人の希望に合わせて外出できるように支援している。家族と一緒に墓参りや外食に出掛けている。	四季折々にお花見をかねてのドライブ、希望を聞きながら、天気にあわせて近くを散歩するなど外出する機会を作っている。また、家族や地域の方の協力を得て、地区運動会、文化祭、夏祭り、JA祭りなど、行事にも参加できるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、預り金として預らせていただいている。利用者がお金を持つ大切さを会議の中で話し合い、支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話を掛けたり手紙を書く雰囲気づくりに心掛けている。家族や知人から電話が来た時は本人の想いが伝わる様支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは日当たりも良く、明るい生活空間であり、床の間、玄関には四季折々の花を飾り、冬場にはこたつを作りゆっくりと寛げる雰囲気作りに努めている。	ホールの大きなガラス戸から山々が見え、自然が楽しめる。畳のスペースには、炬燵が作られゆったりと過ごすことができる。玄関やテーブルには、季節の花が飾られており、明るい雰囲気の中で、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やウッドデッキにソファや椅子を置き、一人でも寛いで頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等大切にしていた物を持参して頂き、安心と心地よく過ごせるようご本人・家族と共に工夫している。	一人ひとり、家族と相談しながら思い思いの部屋作りがされている。使い慣れたたんすや炬燵、家族等の写真、夫の位牌など、落ち着いて安心して暮らせるよう工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、できること、わかることの力がどのようにしたら発揮できるか、職員で話し合い工夫している。		

目標達成計画

作成日:平成27年3月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	ご本人の思い、希望、意向などの記載が少なく把握が不十分であった。	職員全員で担当する利用者一人ひとりの思いや希望、意向について確認し、記録に残し、ケアプランに反映させる。	・センター方式を活用する。 ・モニタリングは職員全員が確認・検討できるようにする。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。